

和み

第3号 2006.12

発行:滋賀県立リハビリテーションセンター
〒524-8524 守山市守山5丁目4-30
(成人病センター内)
TEL:077-582-8157 FAX:077-582-5726
HP:http://www.pref.shiga.jp/e/rehabili/



リハビリテーションセンター公開講座

「暮らしとリハビリテーション」

10月21日、すばらしい秋晴れのもと草津市の県立長寿社会福祉センターで開催された「暮らしとリハビリテーション」の公開講座に参加しました。

会場は当事者やご家族の方をはじめ医師や看護師、療法士、ケアマネージャーなどの医療関係者や福祉関係者、約200名であふれていました。

「私にとって毎日の生活が一番のリハビリです」と、笑顔で生き生きと話される山田規敏^{ノリノリ}先生は、三度の脳出血により高次脳機能障害と身体の障害を抱えながら、母としても、医師としても奮闘した毎日を送っておられます。今回の講演ではご自身の経験を通して「病気を知り、自信を持って生きることの大切さ」や、「見えにくい障害に対するサポート」などについて、医師の立場からそして、障害をもつ当事者としての立場から、話を聞くことが出来ました。

また、座談会では藤原所長、金子作業療法士、日永看護師をはじめ、会場からも活発な質問や意見が飛び交いました。山田先生は時折冗談を挟みながらも、1つ1つの質問に丁寧に答えて下さっていた事が印象的でした。

“困難な事を1つずつ克服し、日々挑戦!”と話される山田先生の姿は輝いて見え、人が生きていく上で大切な気持ちを再確認させていただく貴重な時間となりました。

(看護師:Sさん)



脳卒中者リハビリテーション交流会 11月2日(木) 1時30分～3時30分

第一回目の交流会は、脳卒中者の方やその家族の方を対象に「理学・作業療法士・言語聴覚士と一緒に語ろう」と題して、滋賀県脳卒中者友の会「淡海の会」と県立リハビリテーションセンターとの共同企画により開催しました。

約20人が集まり日ごとの家庭生活、仕事での困り事や日々工夫していること、また、様々な体験談を語り合う場となりました。体験談の中には「退院した日から苦労はしたが台所に立った」「毎日一万歩、歩くことを目標にリハビリをがんばっている」などの個々の目標や、補装具などについての質問があり、療法士からのアドバイスもありました。これからも参加者同士のみならず、みなさんとの交流のきっかけの場として、企画できればと思います。

(相談員:古田)

大津健康福祉センター&リハビリテーションセンター公開講座

『高齢者が生き生きと活動するための、地域づくりとは』

～介護予防の在り方とその根底にあるもの～

木枯らしの吹く11月25日、大津市のアル・マーレで行われました。

松坂誠應先生の基調講演は長崎での介護予防活動や地域リハビリテーションについて、「なぜ、介護を要する状態になるのか」「介護予防とはいきいきとした生活をおくることだ」と説明され、とても解りやすい講演でした。「介護が必要なくなった人もずっと生き生きと生活するためには、地域での役割・支えが必要である」という話は、超高齢化社会を迎えている日本の大きな課題であると、感じました。

パネルディスカッションではデイサービスを利用されている藤木さんと職員の吉田さん、大津市の白子さんが話されました。藤木さんの趣味の話や仲間の話はとても楽しく、反面、吉田さんが「デイサービスからの卒業生を地域で受け止めてほしい」といった話が印象的でした。

(理学療法士:大江)



むれやま荘

皆さんは県立障害者福祉センターのお隣の建物、「むれやま荘」ってご存じですか？

草津市笠山にあるこの施設は、身体障害者更生施設として昭和59年に開所しました。

ここでは、身体に障害のある方が再び、“自分の生活”を取り戻すため、自分に残されている機能を最大限に引き出せるような取り組みに力を入れています。その為、ここでのリハビリは病院のリハビリとはひと味異なる印象です。広い荘内には運転適性検査室・多目的ルーム(パソコン)・学習室・作業棟・日常生活動作訓練室など様々な部屋があり、多彩なメニューが用意されていました。これらを通じて、社会生活力を高めることを『社会リハビリテーション』と言うそうです。

“してもらう”ではなく、“できる事は自分です”そのような雰囲気が随所に感じられました。

平成18年6月からは、「高次脳機能障害支援センター」も設置され、むれやま荘はますます活気に溢れていました。(作業療法士：宮本)



自動車運転シミュレーター



多目的ルーム

僕ユニバーサルデザイン なんだよ♪

ユニバーサルデザインとは？

年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、すべての人が利用可能なように、常に良いものに改良していくという考えです。



名前 ライト(ユニバーサルスプーン)

チャームポイント グリップが太く持ちやすくなっています。普通のスプーンに見えますが、実はグリップ部分が空洞構造になっているため軽く、フ部分が空筒構造にも使いやすくなっています。また、先の部分が少し小さめに作られており、高齢の方でも食べ物を口に入れやすくなっています。さらに、写真一番右のタイプはスプーンとフォーク両方使えます。

どこにいます？ リハビリテーション病棟(西7)階にいます。

(作業療法士：佐野&櫻井)

『ピアカウンセリング』をはじめました。



リハビリテーションセンターでは脊髄損傷・脳卒中・脳外傷により障害をもたれた方やそのご家族を対象に、『ピアカウンセリング』をはじめました。

ピアカウンセリングとは、... 同じような障害・困難を体験している方同士が、同じ視点に立って話し合うことにより、悩みや迷いを少しでも解決し、地域で自立した生活を実現できるように支援することです。

毎月、第4週目の月・木・金曜日にピアカウンセラーの方がセンターに来ています。予約制で相談は無料です。同じ障害があるもの同士だからこそ話せること、聞いてみたいことなど、気軽にセンターまで問合せ下さい。

担当：山田、古田、原土まで

● おしらせ ●

『平成18年度滋賀県連携リハビリテーション学会研究大会』が平成19年3月4日(日)にピアザ淡海で開催されます！

当事者や家族、保健・医療・福祉・教育・職業関係者が一同に会し、新しい知識を得ることで様々な領域のリハビリテーションを盛り上げていきましょう！

ただいま演題を募集しております。

申し込み締め切りは平成19年1月9日となっています。詳しくはリハセンターホームページをご覧ください！

リハセンターの事業案内 & 滋賀県内のリハビリに関する行事案内

日時・場所	タイトル・内容
H19 1月24日(水) 13:30~16:30 彦根市文化プラザ	湖東圏域コース 「人と人、地域をつなぐ介護予防」(仮) 講師：東京都老人総合研修所主任研究員 藤原佳典 先生
H19 2月4日(日) 13:30~16:00 県立男女共同参画センター	センター公開講座《二次障害予防コース》 「脳性まひのある人々の二次障害を考える」 ～自分らしい暮らしが続けられるために～
H19 2月21日(水) 13:30~15:30 草津アマカホール	湖南・甲賀圏域コース 「旅という楽しみ ~ある片麻痺患者の足跡~」 目片和子 氏
H19 3月4日(日) 10:00~16:45 ピアザ淡海	滋賀県連携リハビリテーション学会研究大会 「世代や領域を超えた連携 ~これから期待される地域リハビリテーション~」

<http://www.pref.shiga.jp/e/rehabili/>

事業や企画など最新情報が掲載されています！

外来診療
のご案内

月	火	水	木	金
松本	松本	新里 吉田	新里	吉田

編集後記

師走とないました。大掃除や年賀状作りと落ち着かない休日を通り過ぎてしまふ。そんな中、滋賀県内の情報発信したいと思いまふので、皆さんの情報や意見をください！！

「暮らしとリハビリテーション」を2019年1月9日から放浪されるようであらう皆さんチェックであらう！

(理学療法士：大巧)

R100

滋賀県立障害者福祉センター